

活動レポート 平成23年3月～5月

千種区総合水防訓練の一環として 地域密着型訓練が実施されました。

5月29日(日) 朝からの雨にもかかわらず学区の住民、区政協力委員、見付消防団ら約60人が参加し、風水害を想定した防災訓練が見付小学校で行われました。



デジタル移動防災無線の通話訓練 応急担架を作って搬送



身近なもので防水工事 家などの下敷きになった人をジャッキで救出

子ども会が東日本大震災への募金を実施

3月13日(日) 見付コミセン前 募金額 92,193円



クリーンキャンペーンなごや2011

例年よりパワーアップし140人が参加！

6月4日(土) 班を分けて四谷通り周辺を清掃しました。



強い陽ざしの中、大人も子どもも汗だくでがんばりました。

見付学区連協のH22年度決算報告です。

【収入の部】	【支出の部】	(単位:千円)
前年度繰越金	467	事務費
学区費	1,301	会議費・学区負担金・印刷費等
町づくり助成金	650	防犯灯電気代・施設光熱水費等
集団回収協力金	562	過去の未払い金精算
その他補助金・助成金	149	事業費
自治会・町内会協賛金	175	社会教育活動費(敬老会・成人式等)
夏まつり模擬店売上	342	市民運動費(夏祭り等)
その他収入	134	各種団体助成金
		その他支出
		次年度繰越金
総収入	3,782	総支出
		3,782

(注) 千円未満の数字は省略して表記しているため、合計した場合に誤差が出ます

みつけ掲示板

今年は涼しい夕方から。全員集合ですよ～！

納涼 みつけ夏まつり

8月6日(土) 午後4時30分～8時 見付小学校校庭
雨天時：午後3時30分～6時30分 見付小学校体育館

子ども会夏休みラジオ体操 詳しくは各子ども会まで

- みつけ 見付小学校 7月25～29日
- なかよし・わんぱく 千代保稲荷神社 7月25～29日
- 東山 動物園正門前 8月22～26日

●千種区 親子グランドゴルフ大会 10月下旬

●千種区 名東区 家族ジョギング・ウォーキング大会 11月23日(水) 平和公園

敬老会

9月11日(日) 午前10時30分 ●生協生活文化会館(本山)

ふれあい食事会

11月28日(月) 午前10時50分 ●見付コミセン

ふれあいサロンみつけ

就園前の親子が気軽に集まり、子育てについて自由に語る場です

午前10時～11時30分

●8月24日(水) 千種区在宅サービスセンター

●10月31日(月) 見付コミセン 詳しくは児童委員まで

編集 後記

東日本大震災に身が震える思いで急速「災害特集」をまとめましたが、都市圏にある見付学区としては阪神淡路大震災を忘れるわけにはいきません。 編集室 電話：782-6863 (黒岩) e-mail：Hourensou@lincom.co.jp

- 特集 もう待ったなし！ 見付学区の防災対策を考える。
- 活動レポート 千種区総合水防訓練 クリーンキャンペーン 学区連絡協議会決算報告 ほか
- みつけ掲示板

みつけ 手づくり学区報 第3号

ホウレンソウ

報告 連絡 相談



[特集] もう待ったなし！ 見付学区の防災対策を考える。

このたびの東日本大震災で被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。あの大震災の衝撃の現実を直視するならば、名古屋に住む私たちにとって、本格的な地域防災体制づくりは、もう先延ばしにできない課題といえます。

無きに等しい見付学区の自主防災体制

政府は、今後30年以内に東海地震が発生する確率が87%という想定を示しており、東海・東南海・南海の3つの大地震が連動して起こる可能性も指摘されています。まさに私たちは、東日本大震災級の巨大地震がいつ起きてもおかしくない名古屋に住んでいるのです。しかし、自治会ごとに組織されている自主防災会は全く名ばかりで、その存在さえ知らない人が多いのが実状です。

被害の大きさを左右する地域の防災力

襲ってくる地震や台風を止めることはできません。しかし日頃からの備えがあれば被害を最小限に止めることは可能です。事前の知識や防災訓練を思い出し、落ちていく行動すれば、いざという時に命を守ることができます。つまり、災害による被害の大きさは地震の震度や台風の強さだけでなく、災害を受ける私たちの備えや考え方や行動によって、大きくも小さくもなるのです。



復興を助ける 地域の人のつながり

阪神淡路大震災の復興の中で、「人と人のつながり」が大切だと考えた人がたくさんいました。

風水害や土砂崩れの危険とも隣り合わせ

災害は地震ばかりではありません。かつて名古屋では伊勢湾台風や東海豪雨などの大きな風水害を経験しています。見付小学校西側の山崎川が氾濫したこともありました。東部の丘陵地では集中豪雨の時に土砂災害が心配です。低い所にある道路が冠水することもよくあります。

復興のために自分も何かをしようという意識を持った市民たちが、同じ意識を持つ人とながりを求めたことが、復興を進める上で、大きな力になっていったと言われています。

もし大地震に襲われたら、被災地では何が起きる？

— 阪神淡路大震災が教えてくれたこと —

とにかく生きのびる

大地震では、激しいゆれで重いピアノも飛んできます。落ち着いて身を隠し、まず自分が生き残ることが最優先です。

火災を防ぐ

あわてて火を消そうとして火傷をした人もいました。火の始末は揺れがおさまってからで間に合います。



ライフラインが止まった中でなんとか生活する

阪神淡路では、復旧までに電気は6日、電話は2週間、水道やガスは3ヶ月近くかかりました。寸断した交通網が完全復旧したのは218日後でした。



暮らしをたてなおし、震災前の「しあわせ」を取り戻す

都市の基盤が復旧した後は、被災者の暮らしの再建が何より重視されます。震災から5年後の神戸市民に復興の課題を尋ねた調査では、3割の人が「住まい」、2.5割が「人と人とのつながり」と答えました。



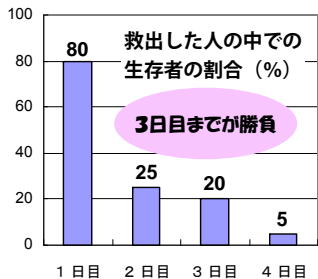
地震直後（数日～1週間） 救援救命・避難対策

復旧期間（2週間～数ヶ月） 緊急復旧対策

復興期間（数年～10年以上） 中長期の復興対策

救援隊が間に合わない！

大災害では消防や警察の人数が足りないため、救援がすぐ来ないかもしれません。



要援護者の安否を確認し救出する

高齢者など自力で避難できない人が取り残されていないか、隣近所や民生委員などによる安否確認と救出が急がれます。



ペットのことも心配

ペットも怪我をするし、えさ等の救援が必要です。阪神では3日目に「地震動物救援本部」が設置されました。



隣近所で力を合わせて命を助ける

災害直後の救助の主役は隣近所の助け合いになります。生死がかかった極限状態では「大切に思っている人」から助けるのが人情です。ふだんからのお付き合いが大切です。



家の下敷きになった人のほとんどは被災地の入びとの助け合いによって救助されました

飲料水・食糧の確保

給水所から重い水タンクを下げて坂道を登らなければならない家はないへんです。また各戸で食糧の備蓄が尽きる頃から、救援弁当に長い行列ができます。



給水所



救援食糧の配給

慣れない避難所生活

やむなく避難所で寝泊まりせざるをえない人たちは、プライバシーのない生活が強いられます。

トイレが流せない

風呂はまだしもトイレはがまんできません。阪神では、断水した避難所のトイレや学校の植木の陰などが、みるみるウンチの山になったということです。



仮設トイレ (学区防災訓練にて)

マンションならではの防災課題

- 停電でエレベーターが使えません
高い階の住民が避難所に移ることもあります。
- 日頃のつきあいが薄い隣近所との協力が必要
復興期には修復方法をめぐる合意形成が必要です。
- 単身者アパートや賃貸マンション
入居者の把握ができず、避難や救援活動に支障が出るおそれがあります。



国の補償には限界が

これまで「個人財産」に対する国の補償は十分ではありませんでした。阪神淡路後にできた被災者生活再建支援法（1998年）でも、最高300万円の支援にとどまります。しかも住宅本体の建築費は支給対象になっていません。

元に戻れたのはいつ？

50%以上の人が被災者だと思わなくなった時期（阪神淡路被災者）

● 住宅が一部損壊の人	1年後
● 住宅が半壊の人	2年後
● 住宅が全壊の人	5年後
● 住宅が層破壊した(潰れた)人	8年～

見付学区の防災はどうすればよいでしょうか

- 各家庭の防災対策がしっかりできるよう、正しい方法や知識を知ってもらう。
- 大きな災害が発生した時、迅速に対応できる救援対策組織づくり。
- 大多数の住民参加による訓練を、日頃から欠かさない。
- 区と連携して、高齢者や要援護者に関する情報を把握する。
- 震災直後を乗り切るため、食糧・水・救援物資などの適切な備蓄を持つ。
- 復旧に向けた困難な時期を力を合わせて乗り切っていけるよう、コミュニティの「人と人とのつながり」を日頃から築き上げていく。

見付学区災害対策委員会（仮称）が6月に発足しました

これらの防災目標に向けて区政協力委員、福祉推進協、消防団などから有志が集まり「見付学区災害対策委員会（仮称）」が発足しました。まずは正しい知識を学ぶことからスタートし、徐々に活動を広げていこうと考えています。

委員募集

災害対策委員になって学区の防災についていっしょに考えて下さる方を募集します。

問い合わせ：金谷 TEL 782-5087

見付消防団員も募集しています。 問い合わせ：近藤 TEL 070-5644-6265